

クラーク博士と教育精神(1)

今、脚光を浴びる北広島市の3偉人
～とわひけクラーク博士～

秋林 幸男 (クラーク会理事)

北広島市の3偉人は、期せずして、ここ数年の間
に大きな注目を浴びることになりました。そうした
なか北広島市のエスコンフィールドで開催されたブ
ロ野球セ・パ交流戦の一つとして広島カーブとの試
合をきっかけに広島の地に注目が集まっています。

北広島の開拓の祖と言われる和田郁次郎は、明治
17年(1887)に広島県人25戸103人の団体で移住
し、野幌原野のこの地を開拓しました。郁次郎翁は
農民たちに平等に土地を分けたくために移住者が
増え、10年後には380戸1,200人余りの大きな集落
になり、米の生産量は北海道一を記録したといわ
れています。郁次郎翁はその後も郵便局長を務めな
がら、学校や寺院への援助など村の発展にたゆまぬ
尽力をしたと伝わっています。北広島でプロ野球の
セ・パ交流戦で広島カーブとの試合が続く限りこの
地と広島との絆が確かめられ、毎年、郁次郎翁が
思い起こされることでしょう。

そしてまた、今年は中山久蔵が島松沢で赤毛米に
よる稲作に成功してから150年にあたります。久蔵
翁は、川から引いた水をゆっくりと流し温める暖水
路を作り、風呂の湯を苗代に入れるなどの努力を重
ねて、明治6年(1873)に赤毛米による稲作成功し
ました。その後も赤毛米の選抜育種に勤め、函館以
北の寒地稲作の展望を切り開いた功労者であり、赤
毛米は今日の道産米の品種改良のもとになったの
です。しかも、久蔵翁は、稲作希望者には種籾とし
ての赤毛米を提供するばかりでなく、現地へ赴き、寒
地稲作を広めるために水温を温める暖水路の技術に
基づいた技術指導も行ったといわれています。

北広島市の三偉人の一人としてたたえられている
クラーク博士(W. S. Clark)がいます。クラーク
博士は、中山久蔵翁が赤毛米による稲作が成功した
4年後の明治10年(1877)に久蔵宅の前で学生達に
「Boys, be ambitious!」という名言を残しまし

た。2026年は、北海道大学の開基150年にあたり、
北大とは切り離すことができないクラーク博士
にも注目を浴びることになるでしょう。

この北広島市の3偉人の偉人たるゆえんは、活躍
した分野こそ違え、共通するのは明治維新やそれに
続く動乱期、また、アメリカの南北戦争の激動の時
代に、「利他の精神」を持って次の時代の展望を切
り開いたことであると私は思います。私たちクラ
ーク会の正式名称は「特定非営利法人 クラーク博士
別れの地・久蔵の里普及促進会」であり、「久蔵の
里」である島松沢にクラーク博士の馬上像を建立す
る土地を確保した今こそ、この3人の中でもクラ
ーク博士に注目し、その足跡と偉業をみていきたく
と思います。

クラーク博士は米国人でありながらも、激動の日
本にあって未開の北海道に來道し、札幌で北大の前
身である札幌農学校の創設に尽力し、「学士号」を
授与する高等教育機関を創設しました。かつて東大
総長であった矢内原忠雄は、『大学について』(東大
出版会、1952年)の中で、「官学…の歴史をみる
と、明治の初年において日本の大学教育に二つの大
きな中心があつて、一つは国家主義の東京大学、も
う一つはクラーク博士が指導した個人個人の人間を伸
ばしていく個人主義に立脚した民主主義の札幌農学
校である」と述べています。しかし、札幌から発し
た「人間を造るというリベラルな教育が主流となる
ことができず、東京大学に発したところの国家主
義、国体論、皇室中心主義、そういうものが、日本
の教育の支配的な指導理念を形成した」と指摘して
います。

島松沢にクラーク博士の馬上像を建立する土地が
確保できた今日、札幌農学校の建学の指導に当た
ったクラーク博士の「クラーク精神」とその業績に
ついて稿を改めて考えてみたいと思います。ウクライ
ナや各地の紛争地で人権が蹂躪され、日本でも難民
申請者や多様な人々の人権が問題にされ、産業の在
り方などの社会の構造が大きく変わろうとする今
日、封建制から資本制へと大きく激動する時代にあ
って個人主義に立脚した民主主義教育を実践したク
ラーク精神が重要だとの思いからです。